

令和4年度木更津市生涯学習推進協議会第2回定例会 会議録

1 会議名 令和4年度木更津市生涯学習推進協議会第2回定例会

2 開催日時 令和5年3月24日（金）午前10時～12時00分

3 開催場所 木更津市朝日庁舎会議室E

4 出席者名

委員：山崎 誠、鵜田 桂子、秋元 豊、原 直人、橋詰 清

平野 正善、小林 路秋、熊本 秀樹 （8名）

事務局：廣部昌弘教育長、秋元淳教育部長、重城秋子教育部次長、

鈴木和代生涯学習課長、鈴木玲子係長、石川浩美主任主事、

地曳由起会計年度任用職員（7名）

5. 協議事項

（1）令和4年度木更津市生涯学習関係事業等について

（2）①新木更津市立図書館整備計画の策定について

②社会教育施設個別施設計画に係る意見公募について

（3）その他

6 会議の公開・非公開の別及び傍聴人の数 公開・傍聴人0名

7 資 料

令和4年度木更津市生涯学習推進協議会第2回定例会次第

令和4年度木更津市生涯学習推進協議会第2回定例会資料

木更津市生涯学習推進協議会設置要綱

【概要版】新木更津市図書館整備計画

新木更津市立図書館整備計画

【概要版】社会教育施設個別施設計画（素案）

社会教育施設個別施設計画（素案）

木更津市意見公募手続の結果公表

8 会議の概要

事務局

それではただ今より、木更津市生涯学習推進協議会第2回定例会を開催いたします。本日、委員12名中8名の出席であり、欠席は4名であります。会議の成立要件については、生涯学習推進協議会設置要綱に特に規定はありませんが、委員の2分の1以上の出席をいただいております。なお、本会議は木更津市審議会等の会議の公開に関する条例により公開されております。本日の傍聴人はおりません。以上報告させていただきます。

それでは最初に山崎会長よりご挨拶をいただきたいと存じます。

山崎会長

皆様おはようございます。蒸し暑い中本日はお集まり頂いてありがとうございます。本推進協議会では1回目が8月2日という事で今回が2回目になります。いろいろな団体の代表の方が集まっております。個々の活動、特に生涯学習の場合は非常に幅広い層が関係しますので、様々な活動を行っている代表の方に集まっていただき、ご自分のところだけでなく、他のところでも何をやっているのか全体的な視点から見ていただいて、今年度の活動を総括し次年度につなげるような議論が出来ればと思っております。よろしくお願いします。

事務局

ありがとうございました。続きまして、廣部教育長よりご挨拶を申し上げます。

廣部教育長

おはようございます。年度末の週末の午前中という事で、大変ご多用の中お集まり頂きまして誠にありがとうございます。コロナもようやく終息してきたということで、3月13日からマスクは個人の判断に任せるとのことと、学校の方も4月1日から原則マスクをしなくても良いと、文科省から一昨日に通達がございました。しかし気持ちの上では、なかなかすぐに元通りとはいかないのかな、という気もしています。3月10日に中学校の卒業式が行われました。この卒業生は皆様もご承知のように、学校がコロナで休校して、6月に入学した年の子どもたちです。6月入学で、毎日マスクをして通学をしていましたが、卒業式はマスクを外した学校が多かったと聞いております。中学校3年間、ずっとマスクをし続けた子たちが卒業していったなあ、と非常に感慨深く見送りました。前回の生涯学習推進協議会では大変活発なご意見を頂戴して、非常にいい会議に出させていただきました。昨日、最後の校長会議の中で、やっぱり学校は子どもたちの自己実現の場で、自分の成長を実感できる場所にしたいという話をさせて貰いました。その話をしながら、生涯学習も全く同じだなと思いました。学校を卒業し、公民館の活動や、大学で勉強をすること、図書館等、様々な学習全て包括したものが生涯学習だと思うのですけども、やはり自分で自己実現や、自分で自分の成長が実感できる場にして欲し

いなという思いを持っています。いくつになっても私自身もそんな貴重な機会を得ていきたいと感じています。

これより担当から説明がありますが、今年度は80周年記念という事で様々な事業を実施してまいりました。生涯学習的な見地から申し上げますとやはり市民公開講座ですとか、生涯学習バスですとか今後課題を残す事業もございますので、本日も様々な立場の方からご意見頂戴いたしまして、次年度の活動につなげてまいりたいと考えております。来年度は、木更津市第3期教育振興基本計画が始まり、新しいスタートの年となります。ぜひ忌憚のないご意見を頂戴して、その計画に反映させていただきたいと思います。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。協議に入る前に、資料の確認をさせていただきます。

資料確認

ではこれより協議に入ります。生涯学習推進協議会設置要綱第6条により、会長に本会議の議長として今後の議事進行をお願いしたいと思います。山崎会長よろしく願いいたします。

山崎会長

はい、ではこれより進行を務めさせていただきます。

それでは協議事項(1)令和4年度木更津市生涯学習関係事業についての協議でございます。事務局より事業の内容を説明して頂いて、その後質疑応答、協議を行いたいと思います。それでは、生涯学習市民講座、きさらづ出前講座、生涯学習バス、若者語らい場の各事業について、ご説明をお願いいたします。

事務局

それでは資料を見て聞いていただきたいと思います。まず、1ページ目、市民公開講座の今年度のプログラムを掲載いたしました。本事業は、市民一人一人の生涯学習に対する関心が高まる中で、地元の高等教育機関の多彩な講師陣による学習機会を設け、市民の多様な学習要求にこたえとともに、生涯学習活動の一層の振興を図ることを目的として開催しております。この講座は君津学園に委託し、今年度10月1日から1月3日まで計6回の講座をオンライン、YouTube限定配信で行ないました。今年は木更津高専にもご協力いただき、1コマ授業を担っていただきました。また郷土博物館金のすずの職員も1コマ講座を実施し、多岐にわたる内容といたしました。また、受講生からのアンケート結果を2ページ以降に掲載しております。公開講座全体を通じて「良かった」「少し良かった」という回答を多くいただいております。ほとんどの方にご満足いただけた、と思っております。良かった講座内容を伺いますと、第1回のロシアのウクライナ侵攻、第6回の金鈴塚古墳を

学ぶ、に声が集まっておりました。また、視聴状況を6ページ以降につけましたが、各回の視聴回数を明記してございます。一人の方が1回見たら終わり、ではなく、何回かに分けて視聴している、または、何度も見て内容を理解している、という様子が推測されるところです。オンラインの開催については、賛否様々な意見がある状況ですが、今回新型コロナウイルス感染症の影響を経て得た新しい学習方法を今後も取り入れていきたいと考えております。

続きまして資料の8ページ、きさらづ出前講座になります。こちらは、市民の皆様の学習会などに市役所の職員が出向き、市の施策や取り組みなどを説明するもので、毎年、各課の協力を得て開催しているものです。本年度は83メニュー設けることが出来ました。また、今年度の実施状況を10ページ以降に載せておりますけども、民生委員児童委員協議会、婦人会、シルバークラブなど、様々な団体から申し込みがあり、30事業実施することが出来ました。アンケート結果を12ページ以降に掲載いたしましたのでご覧いただければと思います。説明がわかりやすかった、内容が充実していた、直接市の職員に仕組みなどを話していただいてわかりやすかったという声が寄せられました。一方で、この制度をもっと広めて欲しいという声もいただきましたので、次年度以降、周知に力を入れていきたいと考えております。

次に生涯学習バスについて説明いたします。市民の社会教育、生涯学習活動を支援し、体験的学習を推進するため運行しております。生涯学習バスは教育委員会、主に公民館を中心とした社会教育の主催事業での運行を基本としておりますが、公民館サークル等の社会教育・生涯学習関連団体の育成と推進にもご利用いただいております。また、ゴールデンウィーク及び夏休み期間は木更津少年自然の家キャンプ場利用促進のため、キャンプ場利用者の送迎に使用し、また、放課後児童クラブや市子連加入の子ども会等にも通年ご利用いただくようになっております。令和4年度までは、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、行先を県内に限定し、利用人数を32名と制限しながら利用していた状況です。4月以降はコロナ前の状況に戻しまして、広く皆様にご活用いただけるように運行していきたいと思っております。資料の20ページをご覧ください。今年度の運行状況ですが、使用日は98日となっております。運行可能日が240日ありましたので、稼働率で見ますと36.3%となります。コロナ禍の2年前と比べますと徐々に復活してきている状況ではありますので、また今後も少しずつ増えていくのではないかと予想しております。また、資料には付けていないのですが、

利用団体といたしましては、教育委員会の使用件数が一番多くて 68 件、生涯学習に関する事業を行う機関や団体は 21 件、その他 11 件に使用いただきました。車両につきましては平成 20 年に購入したものとなっておりますので、故障も出始めている状況であり、今後点検等重視しながら安心安全な運行に努めてまいりたいと思っております。

最後になりますが、若者語らい場についてですが、木更津市生涯学習フェスティバルに代わる事業といたしまして、令和 3 年度に若者が木更津でつながる未来のために出来ること、をテーマに実施したオンラインイベント「つながるフェス 2021」を再構成しながら取り組んだものを、更に本年度に引き継いで取り組んでいる事業となっております。内容といたしましては、若者がオンライン上で自由に集って交流をできる場という形で定期的開催し、その中で出された意見や提案を実現しながら地域の活性化やまちづくりの一端を担う若者たちを育てることを目的としています。若者の地域活動ですとか、まちづくりに参加するためのきっかけを意識的に作りまして、若者がまちづくりの担い手として育っていくことを支援することが、地域の活性化につながるものだと考えておりますので、今後も定期的に語らい場を開催しながら、子どもたち、若者たちとのつながり、木更津とのつながりを作っていけたらと思っております。

また、最後 23 ページにつけてありますダンスフェスを今週の日曜日に行う予定でしたが、諸事情により中止となってしまいましたので、ご報告をさせていただきます。

山崎会長

それでは、ただいまの説明におきまして、ご質問、お気づきのご意見等ございましたらお願いしたいと思います。コロナの状況が徐々に落ち着いてコロナ前に近い形で事業がやれるようになってきたかとは思いますが、次年度にはコロナ前の状況にほぼ近い形で出来るようになるかと期待しております。

橋詰委員

生涯学習の市民公開講座、これは清和大学のホールをお借りして実際にオンラインだけではなくて、対面で講義をやった方が良いのではないのでしょうか。

生涯学習課長

市民公開講座につきましては、来年度新たにきさらづ市民カレッジという形で再構成をさせていただくことになっております。その中で清和大学にご担当いただく清和大学コースについては、今までやってきた公開講座と同じような形で開催する予定です。来年度は講堂を使用し対面で開催できるということで、今準備を進めております。ここ 2 年、オンラインで開催し、オンラインもある一定のニーズがあるので出

来れば両方、オンラインでも対面でも開催できるというような形で進められるよう取り組んでいるところでございます。

山崎会長

私どもも、今お話にありましたように、オンラインと対面、対面でやっているのを中継するハイブリッドという形でやっております。講師の立場と聞く人の立場とあると思うのですが、やはり聴衆の反応がないところで話をするのは結構きついです。かといって、決まった時間にここに来てくださいというのは参加できないという人もいたりするので、ハイブリッドで広くやっていきたいと考えております。ただ、講師も録画されてそれが何回も見られるという事になると、普通のテレビ番組を作るのと同じくらい気を使って準備をしないといけなくなるので、その辺どういう風にバランスをとるかというのは難しいです。ここ数年でそういうテレビ会議とか、オンラインを介していろんな形で中継することが普通のところできるようになりましたので、層を広げるという意味ではオンラインでも中継でも録画でも併用しながら、というのが現実的なのかなと思います。ただ、そうした時に実際に対面開催をする場所に、参加者が集まってくれるのかとか、あまりにも対面人数が少ないと講演する人もやりにくい部分もあるかと思うので、その辺手を打ちながらということになるのですか？

秋元委員

市民講座の関係なのですが、内容的には良い内容をやっていると思っています。しかし、アンケートの「何で知りましたか」という項目が、広報きさらづでほぼ8割となっていますよね。それ以外は、その他となっておりちょっとわからないのですが、基本的に広報きさらづだけでいいのだろうかと感じます。

私、公民館運営審議会委員をやっているとして、公民館の事業を公民館だよりで回しているのですが、私の地区で全員からアンケートを取った時に公民館だよりを読んでいる人は15%しかいませんでした。後はみんな回覧がきても、ざっと見て流してしまう。残りの8割にどうやって公民館だよりの内容を伝えていくか。そこが増えれば利用者も増えるわけですよね。他の公民館はわかりませんが、だいたいせいぜい20%ぐらいの人しか見ていない。その中でおもしろそうだなって実際に来てくれる人は、今現在公民館に来ている方だと思っておりますから、それ以上増やすためには広報のやり方を相当しっかり考えていかなきゃいけないのかな、という風には思っております。そこら辺なにか考えがあるのか、事務局におたずねしたいと思います。

熊本委員

私もちょっといいですか。公開講座の出席者について、先ほど言われたように、皆様にお知らせしていく方法も考えていくと良いと思います。公

民館でのサークル等の代表者の方に積極的に話して、代表者の方からメンバーに話をしてもらおうとか、他に事務局の方でなにか色々なことをお考えになっていれば、その辺もお話しいただけると我々も協力できるのではないかと思います。

事務局 今回の市民公開講座ですが、市の広報きさらづの他にも勿論、市のホームページ、市の Facebook を使って SNS 発信しました。今回 YouTube 限定配信ですので、インターネットや SNS からの申込みが多かった状況です。ですが、課題が残っておりますし、出前講座もまだ周知が足りないので、いろいろな会合に出かけて周知する、ということ、を、少しずつやり始めているところです。

山崎会長 やはりホームページとか SNS は、興味を持っている人が見に行く媒体ではないかと思います。何気なく普通のラジオとかテレビみたいに、意識しないで流れているところにも載せていって、気付かない人や興味のない人にも気づいてもらえるようにできるとよいとは思いますが、お金もかかる事ですので難しいことかと思えます。しかし生活が多様化していますので、なるべく多くの人に知らせることを重視し、マスコミをうまく活用するしかないと考えています。

廣部教育長 他にどのような広報の手段があると思いますか。広報きさらづとか、市のホームページとか、Facebook とか、SNS とか、色々出ましたけど。

秋元委員 あ、私公民館運営審議会委員をやっているのですが、公民館では基本的にサークルで何かを行う際には、関連のサークルに事前に周知しています。似たようなものならやってください、と。各サークルでは事業等を行う際に、色々自前でやろうとするのですが、全てを自前で行おうとすると大変です。例えば市の出前講座もあるからそれを利用したらどうかの提案をしています。自分たちで活動する人たちというのは、良い悪いは別として一生懸命やろうとして、自分たちで全てを立ち上げて作ろうとする人が多いです。ところがこういうのを利用すれば、手間は半分以下で済むし楽ですよ。実際やる人たちは一生懸命やって、人が集まらなくて落ち込んでいく、というのが現状なので、利用出来るものは利用するようにと、私は声をかけています。

それと、私も公民館でいろいろ事業をやっているのですが、事業を行う際には、もう破れかぶれ、来た人みんなに、たまたま公民館に来たような人にもみんな声をかけています。利用者がいれば、知り合いに声をかけるようお願いもします。意外とその口コミでの参加者も大きいようですので、単に情報を流すのではなく、職員も知り合いがいたらこういうのがあるからよろしくと、単純な声掛けだけでもやってみると良いのではないかと思います。

今、公民館運営審議会では、子供たちにどうやって広報をするかということで、場所によっては中学校に公民館だよりを貼らせてもらっております。こういう市の広報から切り取ったポスターなども、学校に貼ってもらったりすると、子どもたちの目に触れる可能性があるのではないかと思います。来るかどうかは別として、可能性があるのならばした方が良いのではないかと考えております。

廣部教育長 公民館へ持っていくのなら、チラシなどの方が良いのでしょうか。アンケートをしたところ、公民館だよりを、読んでいませんという答えがあったのですか？

秋元委員 結局みんな、公民館だよりの情報というのは自分のことと関係がないと思う人が多い様です。公民館だよりには、健康の相談等いっぱい重要な情報が有るので勿体ないですね。見ると有用ですよと、教え込まない限りは駄目だと思います。見るといろんな記事が載っているのですが。

熊本委員 子どもたちを通じて、親へ市民公開講座の情報等が伝わっていくなんて方法もあるのではないのでしょうか。

廣部教育長 来年度、市民公開講座はきさらづ市民カレッジに変わり、事業を拡大予定なのですよね。

秋元委員 もし各公民館にチラシの配布を依頼した場合、多少公民館の関連団体に配るから、そこから1人2人とかね、人数的には多くなるのではないかと思います。

廣部教育長 公民館の入り口にあるデジタルサイネージの効果はどうでしょうか。

秋元委員 広報を行おうと考えた時に、デジタルサイネージを利用しようとする人が少ないかもしれません。私は、あるものなのだから利用すればいいじゃないかと思うので、団体が必要とするなら、自分たちで頼んで使用できないのか尋ねてみてはと思うのですが。

廣部教育長 結構、みんな(デジタルサイネージの)画面を見ているんじゃないかとも思うのですが。

平野委員 今公民館を利用する人は、特定の固定メンバーで活動をしていて、不特定多数の人が来られる雰囲気にはなっていないのではないかと思います。サークルもなんだか固定化してしまっていて、新しい人が入ってこられるような雰囲気になっていない部分が多いのではないのでしょうか。しかしそれをどうしたら良いのかというのは、考えてはいるのですが思いつきません。良い案が出てこないのですが、そういうグループが少しでも新しく人を増やしてくれれば、公民館に来てくれる人が増えるんです。新しい利用者を増やすには、それしかないと思っています。

事業を行えば不特定多数の人が公民館に足を運ぶんじゃないかとも思う

のですが、色々と中途半端になっているのではないかと感じます。例えば広報の仕方も、公民館だよりは基本的に、町内会に入っている人じゃないと配られません。町内会自体、今5割から、いいところでも6割程度の構成員しかいません。そうすると市民の半分しか、公民館だよりは見ていないということになります。それ以外の人には広報きさらづしかない状況なのですが、広報きさらづは新聞折り込みで配布ですし、新聞取っている人は木更津市民の6割か7割しかいない状態です。

小林委員

新聞を取っていない人には、郵送するサービスもあります。

平野委員

郵送して欲しいと申し出る人が、どれだけいるのかが疑問です。基本的に、そういうサービスについて周知されているとは思いますが、そういったことに興味を持ってくれる人がいません。行政のやっていることに参加しようとする人が少ないというのが、一番の問題点なんだと思います。そういう人にどう周知するかとなると、方法が限られてしまいます。SNS等のインターネットとかで見られるような形でやったとしても、高齢者はあまり参加できません。そういう方法だと若い人にしか周知ができないし、市民全体に周知する方法ってすごく難しいですし、大変です。

中学校、小学校の生徒に各家庭に持って帰ってと配っても、そもそも持って帰らないというのも結構あります。でもやらないよりは、やった方が各家庭に周知事項が伝わる可能性があります。だから、公民館だよりも各学校の生徒に配って「家に持って帰って読んで」と言った方が、認知される人数は増えるのではないかと思います。ただそうすると、そのための費用があるのかなというのも問題になりますね。

橋詰委員

シニアクラブも今メンバーを募集していますが、なかなか入ってもらえません。元気な人たちはたくさんいるけど、なかなか入ってこない。そこで、公民館或いは自治会の会場にポスターを貼らせてもらっているのですが、それでもなかなか入ってきません。しからばどうしようかということで、公共の場の駅の中にもポスターや募集の要項等を貼らせてもらっております。学校でも、おじいちゃんおばあちゃんに入ってくださいと伝えてほしいという話をしたんですが、それでもなかなか入ってくれないのが現状です。いろんな場所を使ってきさらづ出前講座のポスターをお貼りになられたら良いのではないかと思います。駅には、ピアノも置いてあるし、お花も置いてあるし、とっても素敵な場所でみんな見てくれると思います。階段だけを見ても、あの絵は素晴らしいですよ。その一番正面に、このきさらづ出前講座の大きなポスターを貼ってくれるともっと良いのではないのでしょうか。

廣部教育長

学校の家庭用連絡メールのシステムで発信できるよう準備をしているので、学校のおたよりとかは全部紙じゃなくてメールで配信をやっています。

これなら紙代もかからないし、公民館だよりもデータだけ送れば10月からはいろいろな人が見られるようになるでしょう。

平野委員 学校でお便りやお知らせをメールで発信しているとなると、もしもメールが取れない人が居る場合はどうなりますか？

廣部教育長 今皆さんスマホを持っているので、メールは8割から9割は取れます。

橋詰委員 紙代とか印刷代とかかかるっていうのがあるのですが、そういう新しいものに慣れない人がいる場合はどうするんだろうなと思います。新しいものを取り入れるのは良いのですが、それについていけないお年寄りはどうしたらと。

廣部教育長 それは配慮しなければいけませんね。

平野委員 基本的にはそれは、色々と加味してその場合はもう、紙で配ってもらうしかないのではないのでしょうか。

山崎会長 世代ごとに情報の取得の仕方が分かれているので、広報の方法は難しいなと感じます。メールやSNSを携帯でやらない上の世代の方々は、丁寧におたよりを読んでいますが、逆に子育て世代や若者世代の情報収集は、メールやSNS中心なのではないかと思います。高校生等は学校経由である程度纏まった広報が出来ると思いますが、やはり世帯ごとに広報を行いたいと考えると、費用が掛かってしまいますよね。メールで配信する場合はそこまで費用はかかりませんが、情報が届かない人も出てしまいます。やはりどのような世代にも、きちんと情報が届くような工夫は必要かなと思います。

小林委員 私は中央公民館だよりが来る区域に居るのですが、魅力がなくて、流し読みしておしまいになってしまうことがあります。もうちょっと月1回の発行といえども、例えば“月の行事”には公民館の行事だけでなく、地域のものとか入れていただいたら良いのではないかなと思います。

山崎会長 「今までこうだった」というものが、大胆にガラッと紙面が変わったとか、そういうのがないとなかなか注目が貰えないところがありますね。

橋詰委員 公民館だよりを市の広報に載せたらどうでしょう。あと大きさはA4になりませんか？昔はA4で、ファイルに挟むときにずっと閉じやすく良かったです。A3になってからとてもファイルがしづらくなりました。

平野委員 昔みたいに町内会で配るならあの大きさでは大変ですが、新聞折り込みになりましたから。町内会で配ってもらうのには、A3用紙だと手間というコストがかかりますけど。

山崎会長 色々課題はあるようですけど、効果的な方法、あるいはお金をかけない方法がいくつか出てきたと思います。この広報に関する議題以外のご質問、ご意見等ございましたらお願いします。

では、次に生涯学習バスについてですが、申請しても実際使っていない数

が結構あったのですが、これはどういった理由なのでしょう。

事務局 仮予約を頂いた時点で「申請」として数えているのですが、コロナの関係や参加者の状況でバスは使わないということがございます。その際、10 日前までに連絡があれば、キャンセルになります。

山崎会長 このバスは、これ専用に確保してあるんですか？

事務局 はい、動く教室として教育委員会の生涯学習課が管轄しております。

山崎会長 そういう意味ではもっと稼働率を上げた方がよいのではないのでしょうか。

平野委員 生涯学習バスの運行範囲は県内だけですか？昔は県外にも行けたような記憶がありますが、今は県内だけという縛りを聞いたことがあります。

事務局 3 月 31 日までは、コロナの影響を鑑み県内のみの運行としておりますが、4 月 1 日の運行からコロナ前に戻しまして、県外まで動けるようにしております。

平野委員 県外まで行ってしまって大丈夫？

事務局 往復で 170 km 以内でという制限はありますので、大丈夫です。

橋詰委員 その方がいいですね。17 時までに帰ってくることは大事だと思います。ただ、交通事情や道路の混雑等で 17 時過ぎてしまい、帰ってこられない時もあります、それは大丈夫なのでしょうか。

事務局 朝 8 時半から夕方 5 時までの運行時間となりますので、その範囲内でお願いいたします。

山崎会長 若者語らい場についてですが、ここも参加者を増やしていくのが大きな課題かと思います。なかなか、来てください、参加してくださいといっても、人を集めるのは難しいでしょうし、今後これはどうしていくのか等伺いたしたいと思います。

生涯学習課長 はい、いろいろな若い人が集まって話し合えるという機会を設けるというのが、第一の目的だと思っております。現在中心となるメンバーが 11 名おり、高専の生徒や大学生、社会人、主婦の方もいます。20 代、10 代、中学生もおります。その子たちがオンラインで会議をしたり、実際に集まったりして、木更津の地域活性化や街づくりとか、「木更津」をキーワードに、自分たちに何ができるかという話し合いを今重ねているところです。まだ経験が足りず、今回直前で予定していたダンスイベントを中止せざるを得なくなってしまったのですが、それは来年度に持ち越してまたやりたいと思っております。まずは若い人たちの意見が実現できる場所をとという気持ちで、生涯学習課がハブの役割を担っていければと考えております。又委員の皆様方には応援いただき、見守っていただければと思っております。

山崎会長 私どももそうですが、学生は卒業などでメンバーが居なくなるので、必ず跡継ぎみたいなものを繋げていかないと継続という点では難しいかと思い

ます。規模を縮小したりして出来るかとは思いますが。

熊本委員 私みたいな年寄りでも参加できますか。

生涯学習課長 一応、メンバーとしては 10 代 20 代となってはおりますが、イベントをやる時にはいろんな方に参加していただければと思っているので、参加等で応援していただければと思います。

熊本委員 社会教育委員会議でも世代間交流を考えてみたいと議題に上がったことがありました。こういう若い人の場には、私みたいなものがあるとついつい余分なことが言いたくなってしまうので、ためらう部分もあるのですが。

生涯学習課長 若い人なので、勝手につながるだろうというご意見はもちろんあるのですが、生涯学習課等行政に関わることによって、若い人たちと地域、若い人たちと高齢の方、若い人たちと地域の団体等、そういった若者と地域を繋げるお手伝いが出来るのではないかと、と思っています。そういう意味で活動の幅が若い人たちだけでつながる活動とはまた違った方向性が見えるのではないかと期待して、この事業を始めたというところがあります。

秋元委員 基本的にこの若者語らい場をやっているというのを、宣伝ビラを流していただけないでしょうか。意外と地域で話をする、こういうことをやりたい子っているんです。ただ、まだこういう事業があるということを知らない、情報やビラを地域に流したり、知り合いに声をかけていただく、と多くの若者が集まるんじゃないかと思っています。1 回みなさんの目にさらすことが大事だということ、こういう活動というのは議論だけではだめです、何か一つのものを小さくてもいいので、実際に動いて次につなげていくことが大事だと思います。今回残念なことにイベントが出来なかったとのことですが、逆にもっと小さい段階でやってもいいのではないかと考えています。

生涯学習課長 おっしゃるとおりで、何かとにかく動いてみるのが大切と、彼らとも話をしていて、今回も年度末でぎりぎりとはなりましたが、直前まで少ない参加数でもやる方向で話をしていたんです。おっしゃるように、やって経験してみないと若い人達もわからないでしょうし、まず 1 回イベントをやってみて、それがどうだったのかというところから、次の段階に進めるというところがあるので、そういったことを積み重ねていってやりたいなと思っています。ありがとうございます。

橋詰委員 この若者語らい場には若い人が来るわけですね。若い人は車で来る人が多いかと思うのですが、駐車券っていうのは出してくれるんですか？

生涯学習課長 基本的にはオンラインで話し合いをしています。東京に行っている方もいらっしゃるし、中学生もいるしと、色んな立場の人がいるので、夜などに、オンラインの会議をしています。メンバーが自分たちの都合のいい日で、ふ

らっと生涯学習課へきて生涯学習課の職員と喋っていくとか、そういうこともありますが、基本的にはオンラインで会議をしています。ですので、基本的には通信料はそれぞれでもっていただいておりますけども、そういった旅費的なものはかかっておりません。

平野委員 これは、参加者じゃなくて、企画者ということですか？参加者じゃなくて、この語らい場を運営するための運営委員会ということですか？

生涯学習課長 そうです。

平野委員 そういう考え方なんですね。この人たちはどういう運営をしていくのか、それをサポートするのが生涯学習課ということですか？

生涯学習課長 そうです。

平野委員 わかりました。

生涯学習課長 生涯学習課も、20代の若い職員が中心になって関わっております。

平野委員 語らい場というけど、何か作るとか例えば芋煮会のようなイベントをやって人を集めるっていうものありだと思います。

生涯学習課長 何をやるかは制限をしていないんです。たまたま今回は、ダンスで高校生のチームを集めてみんなで交流をしたいと高専の学生さんから企画書があがってきて、それを実現しようとみんなで動いていたのですが、他にもそれぞれみんなが企画を立てて持ち寄るという形で話し合いを続けているので、いずれなにかしらイベントが出来ると思っております。

平野委員 学園祭のような形だと、結構人が集まりますよね。何かイベントと言っても堅苦しいものだけだと、企画した人たちは一生懸命やっているけれど、参加者が集まらないということがあります。不特定多数の人が来るものと考えたと、例えばジャズコンサートとか、そういったものを含めてイベントをやった方が非常に良いんじゃないかと思います。若者語らい場の人達も、人を呼び集めるにはどうやったら良いかと考えていると思います。ただ語らいましょう！というだけだと、堅苦しいって印象があります。人を集めるためには、娯楽や音楽、出店的なものでもいいので、お祭りのような雰囲気でないとは集まらないのではないのでしょうか。公民館なんかもそうなのですが、公民館の文化祭で何をやっているかというところ、お餅の販売や、食べ物の販売とかです。真面目な催しなんてほんの一部の人達です。だけど、そういったお祭りのことをやると人が集まってきます。集まる場所として公民館があるという事を認識させるためにも、そういったことも必要ではないかと思います。そればかりじゃいけないのかもしれませんが、それをやらないと人が集まらないというのが現実だと思います。

生涯学習課長 先ほど担当者が申しあげたのですが、もともこの語らい場を始める前に、オンラインイベントという形で2年間続けてやっていました。参加して

くださった若い人たちが、木更津市に対してどういう思いを抱いているのかとか、将来的にこういう街になったら良いなというような思いを、市長と語り合うというイベントです。なので、継続して若い人たちとのつながりを大事にして広げていきたいと思いますという事で、今の形の若者語らい場を行なっております。オンラインの可能性として、木更津市内だけではなく、距離が離れていても繋がれるというところや、まちづくりという意味では木更津の人でなくても、全国どこでもいろんな方から意見を頂けるという利点を生かして、今回の事業をやってみようとなりました。平野委員がおっしゃるように、話し合いだけではみなさん来ないです。だからここから何か作り、何かをやることによってまた新たな人たちが加わって来ることを期待しているというところでございます。

山崎会長

大学でも、地域社会に出て行って、活躍や活動をするというのは、学校教育の中でも非常に重要視されてきていて、本校なんかもそういう場をどういう風にして作っていくかという事で、いろいろ苦勞しているところです。学校の数がもう少し多いと横の関係があるのですが、木更津の場合はそういう学校の数とか限られているので、やっぱり死角をつかないと若者の間の交流は広がっていきません。それから高校生を巻き込むというのも大事なことかと思えます。市内の大学だけだと高校生に比べると人数が本当に少なくなってしまうので。ただ、高校生は大学生と違っていろいろな制約があると思えます。そういう交流の場を作って、なにかイベントをやり、ひとつ何かをやったということが起爆剤になったらと思えます。

続きまして、協議事項（２）に参ります。新木更津市立図書館整備計画の策定について、社会教育施設個別施設計画に係る意見公募についての説明を事務局にお願いします。

事務局

説明

山崎会長

これは大きな問題かと思えますので、ここで討議するというよりも、いろんな質問やご意見を出していただく形となるかと思えますので、よろしくお願いいたします。いかがでしょうか。

公民館もだいぶ年数がたっておりますので、建てた当時と人口やコミュニティーの形が変わっていたりします。新しくなれば良いつて面もあるでしょうけど、なかなか兼ね合いがあって難しいかと思えます。

図書館の方は、今電子メディアの方をかなり取り入れています、新しい図書館はメインを電子に移していくなどするのでしょうか。

生涯学習課長

今の図書館でも電子図書のサービスが始まっているのですが、やはり電子図書だけでは限界があります。電子図書は、契約をして、その契約期間中は電子図書で貸出閲覧ができるという事なのですが、新刊は電子図書に出

来ないなど条件がございます。なので、電子図書が普及しても紙媒体のニーズは変わらないのではないかと考えております。

図書館は本を貸出だけでなく、ものを調べるとか、古い資料などを保管していくという役割もあります。木更津市の図書館といたしましては、歴史資料をたくさん所蔵しているというのが特徴の一つでもございます。また、障がい者用の、たとえば大型本ですとか、点字本なども、県下で一番たくさん持っています。そういったものが木更津市の特徴となっていくので、これを活かした新しい図書館づくりというものを、今回この計画の中でも意識して入れているところでございます。

山崎会長 公民館について、直接関係している人も多いかと思いますが、いかがでしょうか。

秋元委員 10 ページの対策の優先順位というところで、建物の強さから計算されていると思いますが、地震対策とかそういう面も考えていきますと、地盤を含めた総合的なもので判断をしていただいたほうが良いのではないかと思います。ですから、岩根公民館は地盤があまり良くないし、文京公民館も中郷公民館も地盤が良くない。優先順位的には早いですが、鎌足公民館の地盤は良いですから、少なくとも地震対策での優先順位を決めるなら、建物だけじゃなくて地盤も含めてから、順番を考えていっても良いのではないかと思います。

生涯学習課長 ありがとうございます。今回の長寿命化計画、個別施設計画については、あくまでもそれぞれの建物の躯体の健全度という形で出させていただいておりますが、最終的には地域の状況ですとか、そういうものを含めて総合的に判断していくものと考えております。ご意見ありがとうございます。

山崎会長 公民館は災害時の避難場所等の役割もありますから。その他に何かございませんでしょうか。

平野委員 公民館の駐車場の整備っていうのは、どれくらいの台数を基本に考えているのでしょうか。公民館は人の集まる場所なので、駐車場も一緒に完備しないとその地域の人達、住民や利用者からの苦情も出てくるかと思います。そういうところまで完全に整備したり改修するのは想定されていないのでしょうか。

生涯学習課長 基本的にはどこの公民館にも駐車場はございます。おっしゃるように岩根公民館は建物の敷地内ではなく、離れたところに駐車場があります。木更津市の場合、各中学校区にひとつ、という形で公民館が配置されているので基本的には歩いて来られる範囲内に配置してきたというところがあります。ただおっしゃるように、利用者が高齢化していますので、車でないと近くでもなかなか利用が難しいというところもありますし、公民館には小さくて

も駐車場が設置されているのが望ましいと考えております。これからもし公民館が改修されたり新しく建ったりということがあったら、その際はやはり十分な駐車場を確保するという事になるのではないかと考えております。

橋詰委員 中央公民館の駐車場は料金が発生しましたよね。

生涯学習課長 中央公民館はお部屋を利用している時間の分は、駐車回数券という形でお渡しをさせていただいているかと思います。

ただ、駅前西口駐車場は5月の連休明けで使えなくなりますので、また別の駐車場を確保しご利用していただくという事で、今準備を進めさせていただきます。

山崎会長 その他、いかがでしょうか。なかなか、内容が内容なので、お金もかかるので要望は出せるけど実現が難しいのがなんとも悩ましいですね。

スムーズな議事運営にご協力頂いて有難うございます。これで協議の方は終了とさせていただきます。いろんな意見が出ましたので、纏めていただいて、反映できるものは反映し、ご検討をお願いいたします。それでは、第2回生涯学習推進協議会を終了いたします。ありがとうございました。

事務局 長時間に渡りまして貴重なご意見をありがとうございました。今後とも本市の生涯学習の活動の推進のため、委員の皆様にはなお一層のご支援とご協力を頂ければと思います。

ではこれをもって、第2回生涯学習推進協議会定例会議を終了いたします。